

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	小学生における”思いかた”の学年的発達傾向
Author(s)	佐藤, 憲朗
Citation	児童の言語生態研究 , 7 : 18 - 23
Issue Date	1975-05-24
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045078
Right	
Relation	



II 小学生における「思いかた」 の学年的発達傾向

佐藤 憲 朗

一、目的

本調査は、子どもの感情発達を考慮するために行なった基礎的調査である。基礎的という意味は、感情内容を対象とする以前に、感情内容と意識との結びれ方を問題とするからである。即ち、われわれが「〜と思う」と言う時は、何らかの意味で、心の動きを意識化したといえる。子どもの感情の発達という、常識的には、子どもの心の中味を考へてしまう。本会の研究の直接目的もそこへ向かおうとするものであるが、本調査は、感情の中味を「〜と思う」ということばなどによって、どう包もうとするか、いわば中味の包み方を調査することによって、感情内容の発達を、言語化された側面より押えてみる事が可能であり、感情内容の発達を考へるために間接的ではあるが、有力な手がかりとなると考へたのである。もとより、「〜と思う」などのことばを伴わないで、感情内容あるいはイメージは自由に動きまわり、変容するものかもしれない。しかし、日常的言語表現においては、この「思う」に関する類語を用いることによって、その人の意識内容が交換されるのだというコミュニケーションのルールを互いに知っている。ルールだから、「あんなはあるときそう思ったと言ったのに、

本当はそう思わなかったのだね」ということも起こり得る。しかし、そう抗議した者も、「そう思わなかったのだね」と思うことによって、抗議の意識を相手に伝えていくし、また、そう言われた被抗議者が、もし「でもあの時はそうだと思わずにはおれなかったのだ」と弁解したとしたら、やはり「〜と思わずにはおれなかった」ということで、心の中味を包んで、自分の意識内容としていくといわなければならぬ。このルールは絶対だからといって、この手続きに従ったものが、間違いない意識の中味かどうかは決定できない。しかし、言語表現においては、このルールを破ることはできない。従って、子どものイメージは果しないとか、子どもの豊かな感情をとか、子どもを受するおとなたちの讚美の声も、われわれの耳に入らないわけではないが、このルールに従うならば、子どもたちは、世の中の子ども愛好者が歌い上げるほど、自分のイメージや、自分の感情内容を、内容として自由に包めるとは言えないのである。少くとも、言語表現のルール上からはそうである。

学生の段階では、当然、この習得過程にあるわけだから、人間としての、様々な「思い方」は、言語表現のルール上において、極めて不自由だと考へるべきである。更に、一般用語と違い、「思う」に関する類語であることにおいて、人間的必然性、あるいは日本的「思い」の習性から、この「思い方」の様々には発達の順序と傾向があるにちがいないのである。たとえば、小学一年生の用語の中に、「思い改める」「思いあまる」などという語が入っているなど誰でも考へないということである。それはそういうことばを知らないというだけの問題ではなく、人間の意識のとりまとめ方の発達として考へて行かねばならなかったことであった。本調査は、以上の趣意によって、小学生の言語化された「思い方」の形式とその発達段階および傾向を知ろうとするものである。

二、調査事例の概説

○調査の提示と方法
口頭によって、担任から次の通り指示した。

「思うということばの下に、何かことばをつけるといういろいろな言い方になります。知っているだけ書いてください。」

○調査対象

二年 東京 四谷第一小

二〇名

東京 町田南第四小

四一名

三年 東京 町田第四小

三六名

東京 町田藤の台小

三五名

横浜 大正小

四三名

四年 東京 町田第四小

四一名

東京 港南小

四二名

五年 東京 相原小

三七名

横浜 大正小

四三名

六年 東京 町田第四小

三九名

横浜 大正小

三九名

(なお一年は、質問の意を解しがたいという判断から除いた)

計 四一六名

○実施年月日 昭和四十九年四月

六月

三、調査結果

まず、集録できた全ての語を、正語

以外は除去し、次に掲げる。

思いあがり。思いあがり。思いあがる。

思いあたり。思いあたる。思いあます。

思いあまる。思いあかぶ。思いあかべ

る。思いうつる。思いをえがく。思い

思い。思い思う。思いがけ。思いかけ

る。思いがけない。思いかなしむ。思

いかわす。思い切つて。思いきり。思

いきる。思いくらべる。思いこす。思

いこなす。思いこみ。思いこむ。思い

さまよう。思いしずまる。思いしずむ。

思いしぬ。思いしらす。思いしる。思

いすぎ。思いすぎる。思いすごし。思

いすごす。思いぞんぶん(？)。思うぞ

んぶん。思い出しわらい。思い出す。

思いたち。思いたつ。思いたのしむ。

思いちがい。思いちがえる。思いつか

れる。思いつき。思いつく。思いつく

す。思いつづける。思いつめる。思い

とおす。思いとおり。思うとおり。思

いとどまる。思いとまどう。思いなお

し。思いなおす。思いなやむ。思いの

こし。思いのこす。思いはじめ。思

いふける。思いにふける。思いのほか

思いまちがい。思いまどう。思いまよ

う。思いみる。思いやむ。思いやり。

思いやる。思いもよらない。思わず。

思いのまま。思いいれる。思いすて

(?)。思いわたす(?)。(以上78語)

○初頭語について

ところで、小学生たちが、最も頭に

浮かび易い、彼等たちの「思い方」を

知るために、被験者が最初に思いつい

た第一語(以下初頭語という)を問題

にしなければならぬ。おそらく「思

う」ということばの下に、何かことばを

つけるといういろいろな言い方になります。

知っているだけ書け」と言われてのこ

とだから、それが、自分の思いつき易

い思い方だとは思ってはいないであろ

う。それだけにこの初頭語は本調査で

は意味のあるものだと考えられる。

別表Aを参照されたい。各学年とも

に、「思い出す」が首位を独占し、四

年生で「思いやり」、六年で「思いつ

く」が二位に来ていることは率の高さ

からも重要視すべきことにちがいない。

○頻出度数より

50%以上の頻出度を示した用語と30

%の頻出度を示した用語の全て

にわたっての学年別一覧が別表Bであ

る。傾向からいって、三特徴にわけら

れるであろう。多少乱調はあるものの、

学年発達通り、漸増的であるもの、即

ち「思いやり」「思いきる」「思いの

こす」がそれ、他に二年を別にすれば、

三年以上にそうなる「思い出す」と

「思いつく」。逆に最上級生の六年を

除けば、五年まではそうなる「思い

かべる」「思い出せない」。但し、こ

れらは、前者においては三年の落ちく

ぼみ、後者では、五年の特別伸長を問

題とすべきかは論が残るところである。

今一つの特徴は、やはり語によっては、

ある学年に達しなければ多が出ないも

のがあるということを認めないわけに

はいかない事例が出たことである。

「思うぞんぶん」の六年、案外なのは、

同じく「思いきる」。「思いのこす」

「思いなおす」は五年からということ

も、今回の調査で得られた大事な結果

である。

別表C-1が小学生全体の頻出度

による集計である。彼等たちの思うこと

に關しての日常生活は、半分までが思

い出したり、思いついたり偶然とい

うか自然というかの意識のままと

ことになる。但し、大体その次あたり

に、「思いやり」が進出して来ている

のはとにかく御同慶の至りということ

になる。

○学年別について

本調査は、その発達のポイントを知

ることにあるので、別表C-2/6を

作成した。高率なものの順序「思い出

す」「思い出」「思いつく」が、四年

まで全く同じである。(二年の表(C

12)に「思い出」の分がないのは、

全く調査統計者のミスで欠落させてし

まったことを付記しおわびする)五年

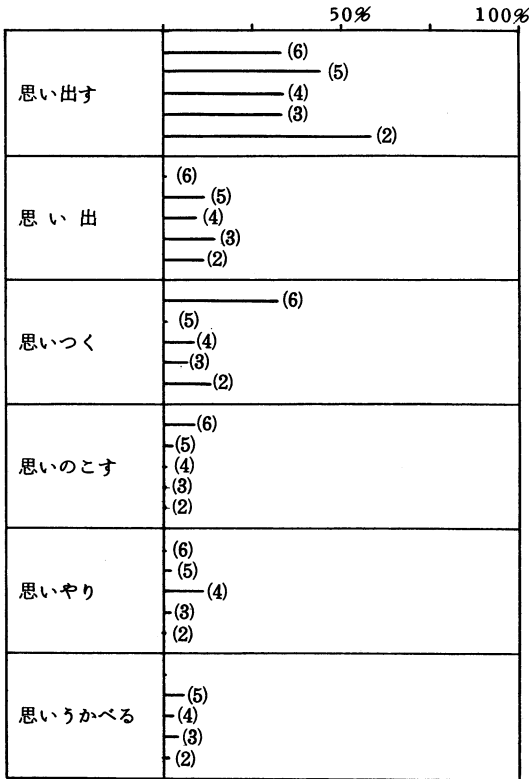
になって「思いつく」が二位に上がり

六年で遂に首位に立つのも彼等の意識

生活に顕著な変化のあることを示すも

のといつてよいだろう。

別表 A



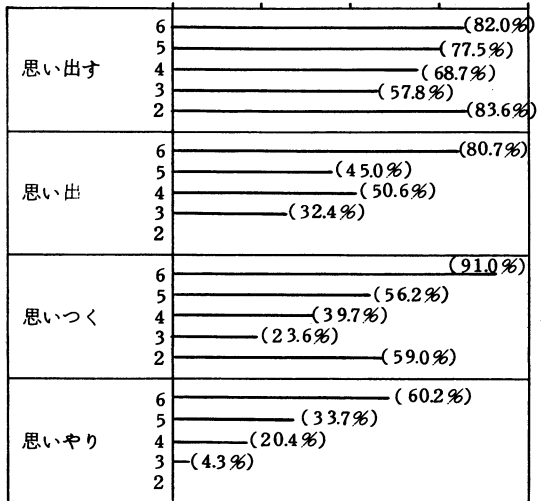
○ 上記以外の初頭語

年	初頭語
6年	思いあたる, 思いあがる, 思いをかぶ, 思いがけない, 思いきる, 片思い, 思いこむ, 思いしずめる, 思いすこす, 思いのこし, 思いもよらない, 思いなおす (各1.2%)
5年	思いちがい(5.0%) 思いなおす(3.8%) 思いきり(いっきり)(2.5%) 思いきって 思いつめる, 思いなおし(各1.2%)
4年	思いがけない(4.8%) 思いつめる(2.4%) 思いきり(いっきり)(2.4%) 思いをかぶ 思いこむ, 思いちがい, 思いなやみ, 思い出させる, 思いしる, 思わず(各1.2%) 思いついた(1.2%)
3年	思いきり(4.4%) 思いがけない(2.6%) 思いをかぶ, 思いきる, 思いちがい(各1.7%) 思いこむ, 思いしる, 思いつける, 思いかける, 思いあたり, 思い出せない(各0.8%) 思い出した(1.7%)
2年	思いをかぶ, 思いつける, 思わず, 思い出した(各1.6%)

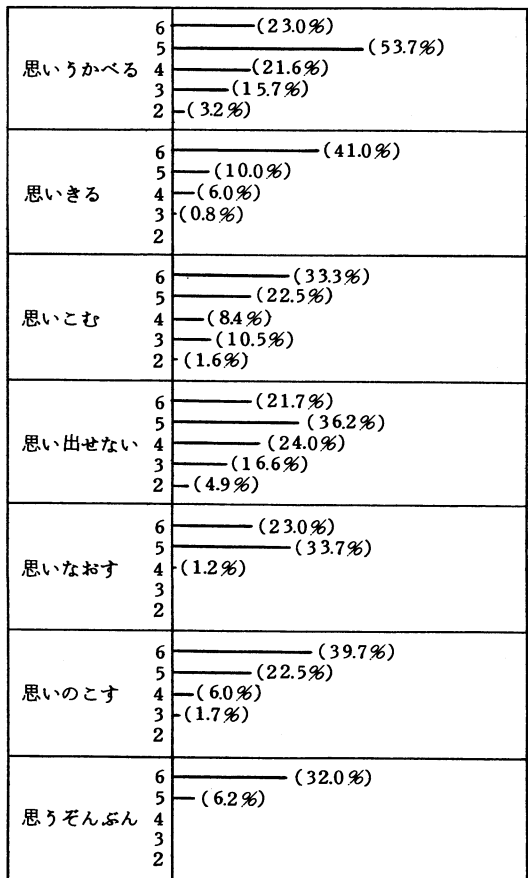
尚, 複合語以外のものは除いた。

別表 B

1. 50%以上



2. 30 ~ 50%



○ 心的内容の変化について

以上が、意識の先端にあるものを集計表から窺ったものである。更に、全体を蔽うものでなくとも、微妙に「思う」姿勢上の変化は動揺している筈で、これを捉えなければ、子どもたちの生命的なものに触れて行くことが出来ないで、これらを心的内容の性質に分けてみることを試みた。

まず、「思う」ことにわれわれが種別的にどれだけの心的内容を示すものか。広辞苑を参考にしてみると、「思う」の項には、①……という顔つきをする。表情をする。②判断をする。思慮する。③もくろむ。願う。希望する。④おしはかる。予想する。想像する。⑤決心する。⑥心配する。⑦愛する。慕う。⑧過去の事を思いおこす。思い出す。等、用例を八分類している。他の辞書においても大体大同小異であるから、一般人におけるわれわれは、の如き八種ぐらいの心的内容の時に「思う」の語を発していることになる。もっとも、これも生理学的や心理学的にはそれをそのまま的内容といてよいかどうかは別であるが、既述したように、言語表現上のルールに従った場合、これを心的内容ということは許されるだろう。一般的には、これを「思う」の意味とよんでいるものだから、「思う」の意味分化がどの順序で、ど

の学年に発達が見られるかと考えてもよいのだけれども、このままのものを意味として扱おうと、ことばを言い換えることと区別がつかなくなる。そのことともう一つ、これは語「思う」についての場合々々の心的状態を言語化して区別したものであるから、感情発達の意識化として思い方の変容というのでは、一方は目的で、一方は方法の違いもあるという理由から、われわれは、本会の分類によって、次のようにした。

1. 情動的志向（発動・衝動・回帰・停滞・反戻・興味・関心）
2. 決断・決意志向（決断・執着）
3. 充足に関する志向（満足・不満足・焦燥）
4. 時間に関する志向（予期・予想）
5. 対人に関する志向（同情）
6. 比較的志向
7. 人間評価的志向
8. 古式感情（喜怒哀楽）

被験者から出た「思う」の複合語すべてを右に分類した一覧が別表Dである。但し、分類できず、今、即決するよりも今後の課題として残して考えた語に、「思いちがい」「思いわすれる」「思いしぬ」等があった。「思いわすれる」「思いしぬ」「いずれもやや不安定で現在正語として扱ってよいかどうか問題もあるが、習得過程を対象

とするからには無下に棄却もできない。また、「思いちがい」等は、意識錯乱という大事な課題でもあると思われるので、後日待つことにする。

その通年における全体百分率がD-1であり、以下、各学年毎が、D-2、D-6である。まず、全体で見ると、約六割が「情動的志向」うち、反戻・回帰・停滞」と「発動・衝動」とだいたいその半を折半する。次いで「決断・決意志向」が続き、「執着」が「決断」より倍の一割を占めていることは、なかなか決断できずに、やり遂げられずにいることがわかる。「充足に関する志向」「対人に関する志向」「時間に関する志向」は、ほぼ五割ずつが続く。他に「比較的志向」や「人間評価的志向」「古式感情」がわずかに顔をあらわしている（別表D-1）

二年生においては、「情動」が約九割を占め、次いで、「時間」が続いているが、入学して一年あまりを経た子どもたちに、わずかながら「対人に関する志向」が芽生えていることは見落されないが、殆んどの子は、先述したような偶然というか自然というかの意識のままといつてよい。（別表D-2）

三年になると、「情動」が減少するだけに「決断、決意志向」が増し、「充足に関する志向」も芽生えてきている。（別表D-3）

四年生になり、決断より、執着の感情が増してくることは、「対人に関する志向」が増して、他人のことを意識し始めることと、おそらく関係のあることであろう。（別表D-4）

五年生になると、「情動的志向」が約六割に押えられ、「発動・衝動」と「反戻・回帰・停滞」はほぼ同じ割合を占めているが、内面的には「執着」の思いがますますつり、自分と他とを「比較」しはじめ、「対人」を気にする段階といえるだろうか。（別表D-5）

六年生では、五年以上に「情動的志向」を押え、グラフにはあらわれないが、自分の「興味・関心」をあらわす語が初めて出ており、五年より「執着」の思いもわずかながら減少し、「充足に関する志向」がまたわずかに増してきてバランスを整え始めているといえるだろう。他に「人間評価的志向」の語や「古式感情」に寓す語がわずかにあらわれたことも成人に近づいて来たといわねばならぬ。（別表D-6）

（東京・町四小・教諭）

